

2024・4月ネパール視察報告

この5年、福岡ネパール児童教育振興会を応援して支えてくださったことを心より感謝いたします。

8月で賛助会費のご協力のお願いは最後になりますが、今後とも引き続き当振興会へのご協力をお願い致します。

学校を取り巻く現状

CSNによるサポート開始

2022年からはCSNにサポートを依頼することになり、新しく校長先生も迎え、先生たちの研修なども取り入れながら、まずは学校の運営、再建に向けて関係者一丸となって進めて参りました。

そんな中、昨年(2023)の夏ごろから校長先生が体調を崩され、一時は回復もされたのですが、その後辞職せざるを得ない状況となってしまいました。

若くしてやる気にあふれ、生徒たちからも慕われていた校長先生だったので、これはとても残念な事でした。

ポカラ市21区長、ポカラ市長との面談

昨年秋のネパール訪問の際に、学校のあるポカラ市21区の区長と面談する機会が出来たので、ニルマルポカリ学校の支援をお願いしました。

区長も以前よりニルマルポカリ学校を気にかけて、何か協力できたらと思っていたそうです。しかし、この地域全体で過疎化が進んでいて、子供の数も減っている。公立、市立合わせて14校に対して就学児童は1300人。単純計算でも1校あたり100人に満たない。

どの学校も運営は難しい。この現状を地域全体の問題と捉え、教育改革に取り組む必要があると言う事でした。

区長面談の後も、ポカラ市長にもお願いに上がったのですが、同じようにポカラ市長も、子供たちの教育には力を入れていきたいと仰っていました。

こういった現地での話から、私立校である福岡ニルマルポカリ学校だけが運営に苦しんでいるのではない、と知りました。

今は、私どもが支援してきた学校だけでなく、この地域全体の子供達のより良い教育環境を整えるべきであると思いました。

学校運営の問題点

学校運営の長年にわたる問題として、毎月の授業料未納者が非常に多いと言う問題があります。そして毎月の収入がほとんどない学校運営側は、教職員の給料の未払いになると言う悪循環が生まれています。

この現状は日本人としての感覚では理解しがたい問題なのですが、こういう事態に於いても、とりあえず学校として毎日の授業は行われ、子供はなにも知らず学んでいます。

この問題に対しては、彼らなりに努力していると言っていますが、日本からの支援の中でいつか助けてくれるはずという甘えも有るようです

《 福岡ニルマルポカリ学校 》のこれから

今年度は福岡ニルマルポカリ学校の支援を始めてみて25年目になります。開校当初は、10年の約束だった支援も25年となりました。振興会としても今の問題点をふまえ、今後について話し合いました。

25年前と現在の時代や社会の変化、地域の変化、携わる人の変化の中で、学校の子供達の未来のために、今 どうするべきか……

福岡ニルマルポカリ学校を政府に譲渡する事で、子供達も安心して学べるのではと言う結論に達しました。

政府に譲渡すると言うことは、福岡ニルマルポカリ学校と言う学校名もなくなり、政府運営の公立校として学ぶこととなりますが、授業料無償の公立校であれば、保護者は安心して通わせられるし、それは子供達の安心にも繋がるはずです。

政府が取り組もうとしている教育の質向上が進めば、更に子供達の未来も明るくなるし、地域の活性化、にも繋がると思います。

2024年の年明け直ぐに、福岡ニルマルポカリ学校関係者にも支援終了に当たり、政府へ譲渡するよう要請しました。しかし、学校側からの返事は、このまま私立の福岡ニルマルポカリ学校として運営していくと言うものでした。

25年もの間、ニルマルポカリ村の学校として大切にしてきた。このまま手放したくない。もう一度、今度は自分たちの力 で自立し運営していきたいと言う強い意志がそこにありました。

新しい学校も決まり、学校関係者は今まで以上に、今後の学校について真剣に話し合い、決めたそうです。この強い意志は、今年の4月に訪問した際にもしっかりと伝わってきました。今度こそ頑張るから、振興会もまだ支援を続けてほしいと言う気持ちもあったようですが、当振興会としては、あえて支援終了としました。

福岡ニルマルポカリ学校の運営自立は、25年前からの目標でありました。児童教育への意識の低かった村に学校を設立し、大人たちは子供たちへの教育の必要性を知ってもらいました。そこが伝わったからこそ、一時は生徒数も大幅に増え、日本への留学をするような優秀な生徒も出て来ました。

今では日本人が建てた福岡ニルマルポカリ学校として、ネパールでも周知されるようにもなりました。

様々な環境変化の中で運営が変化しながら 25年もの間に、この村に福岡ニルマルポカリ学校は在り続けました。

そして今、決して良い状況ではないけれど、学校運営関係者や職員は、自分たちで今後も学校を盛り上げ、存続させたいと立ち上がりました。自立へ向けての大きな一歩だと思います。まだまだ困難は続くかも知れませんが、これは、彼らも乗り越えなくてはならない道。支援を続けてきた私たちにも勇気を出して手放し、彼らの背中を押そうと思います。

今後は本当の意味での自立が達成できることを、少し離れた所で見守りたいと思います。

事実上、福岡ネパール児童教育振興会として、福岡ニルマルポカリ学校への支援は終了になりますが、ネパール国内には、まだまだ児童教育への支援が必要なところは沢山ありますので、私たちも視野を広げ、これまで以上にネパールの子供達の教育のために活動していきたいと思えます。